

# 第10回水稻病虫害発生予察結果（伊豆市内）



## 4月下旬～5月上旬田植えの早生品種(コシヒカリ・ひとめぼれ等)

### 【生育状況と栽培管理】

4月下旬から5月上旬に田植えを行った田んぼでは、籾の中に入っていた白い液体が固まり始める糊熟期となっております。まだ籾は完熟しきれていないので、間断灌水の水管理を行うようにしてください。

また収穫作業のために早期に落水をする方が見受けられます。早期に落水をしてしまうと、籾の厚みの形成に影響が出たり、登熟不良により品質の低下につながるため、田んぼの落水は収穫7日前を目安に行うようにしてください。

### 【早生品種の出穂後の積算温度について】

コシヒカリの場合、出穂から数えた積算温度が 1,000℃に達した頃が刈取適期と言われておりますが、気象条件により前後することがありますので、籾の黄化具合を見て刈取り時期の判断を行ってください。(籾の 80%～90%程度が黄変し、穂の元に緑色の籾が一部残っている頃)

各地区の早生品種の出穂が確認出来てからの積算温度は以下の通りとなります。

(8月8日時点)

地区	下白岩	原保	門野原	大平	北又
温度・出穂					
積算温度(℃)	585	574	585	592	585
出穂確認日	7月18日(出穂より21日目)				

積算温度と出穂日は各地区に定めた巡回圃場のものです。

### 【病虫害の発生状況】

田んぼでウンカの発生が確認されています。現在、発生量は少ないですがウンカが起こす被害として、ウンカの大量発生により多くの稲の汁液を吸い枯らしてしまう『坪枯れ』という被害が発生します。『坪枯れ』が発生すると収穫量減少を招く恐れがありますので、ウンカの発生動向に注意してください。

## 5月中旬～下旬田植えの中晩生品種(きぬむすめ・あいちのかおり SBL 等)

### 【生育状況と栽培管理】

幼穂は5cm～穂ばらみと圃場によりバラつきが見られますが、1週間～2週間ほどで出穂と予想されます。出穂には水が必要となります。この時期に田んぼを干からびさせてしまうと玄米の成長に悪い影響が出ますので、水の管理に注意してください。

またカメムシの発生が確認されておりますので適期防除をお願い致します。防除タイミング等については「第7回水稻病虫害発生予察結果」をご確認ください。

### 【病虫害の発生状況】

現在早生品種の田んぼでイネ内穎褐変病(ないえいかっぺんびょう)の発生が確認されました。発生条件としては開花中の籾に雨や風などで運ばれてきた菌が内部に入り込み発病するといわれており、さらに、高温により菌の活性化を助長するといわれております。発病した玄米は着色米や死米など、品質低下の原因となります。

発生の予測をすることは困難で、発生してからは薬剤散布の効果がないため、出穂期から開花期に高温・降雨が予想される場合は穂ばらみ期から穂揃期に防除を行ってください。修善寺営農経済センターにて販売している登録農薬は下記の通りとなります。



薬剤名	適用病虫害	10アール当たり使用量	使用時期
ダブルカットバリダト レボン粉剤 3キロ	いもち病、紋枯病、もみ枯れ細菌病、 <b>内穎褐変病</b> 、ウンカ類、カメムシ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガ	3～4kg	穂揃期まで

過去の予察結果・栽培管理は  
こちらからご覧になれます！



作成日：令和5年8月8日  
J Aふじ伊豆修善寺営農経済センター  
担当：竹村  
電話：0558-72-4461